# オープンソースまつり

法林 浩之

日本UNIXユーザ会
hourin@suplex.gr.jp

## 立ち上げ

- □ぷらっとホームとの出会い
  - ○同じようなことを考えていたらしい
  - ○ヒロセイベントスペース(秋葉原)が会場候補に
- □時を同じくしてオープンソース運動が活発に
  - ○ユーザグループが数多く立ち上がる
- □ユーザグループを集めた展示会を開こう

## 発表概要

- □オープンソースまつりの内側を描く
- □運営しないとわからない話を伝えたい
  - ○金銭
  - ○労力
  - ○人間関係、など...

## オープンソースまつり '99 in 秋葉原

- □会期: 1999年11月12日(金) ~ 13日(土)
- □場所: ヒロセイベントスペース
- □展示
  - ○企業10社、ユーザグループ10団体
  - ○ステージ発表21件
- □セミナー
  - ○有料6件、無料8件
  - ○ユーザグループ、企業が提供
- □来場者数: 7300人

## まつり以前 ~ jusの展示会の歴史 ~

- □UNIX Fair
  - ○1986年 ~ 1995年まで年1回ずつ10回開催
  - ○商用UNIXの隆盛とともに規模拡大
- □1995年ごろから商用UNIX衰退
  - ○出展社減少→出展料収入減→赤字に
  - ○「UNIX」では客を呼べなくなった
- □Network Users' 1997
  - ○1997年3月開催
  - ○「ネットワーク」(インターネット)をテーマに
  - ○でもやっぱり客を呼べなかった

## まつり'99の開催結果

- □平日の来場者が少ない
  - ○初日(金曜)2000人、2日目(土曜)5000人
  - ○みんな仕事では来れないのか？
- □展示レイアウトの失敗
  - ○1階にユーザグループ、地下1階に企業を配置
  - ○地下1階に人が行かない
  - ○来場者は、ユーザグループを見にきたついでに企業も見る
- □収支は赤字に
  - ○jusとぷらっとホームが負担
  - ○ある程度は覚悟していた
- □「まつり」らしい雰囲気を作ることはできた
- □周囲の評価も良かったらしい → 2回目を開催しよう

## 新しい展示会の模索

- □コンセプト
  - ○商業展示会とは違う雰囲気を作りたい
  - ○個人が使うUNIX、PC-UNIXに焦点を当てたい
- □コードネーム「まつり」
  - ○1998年4月には名前が出ていた
  - ○当初は「PC-UNIXまつり」などと呼ばれていた
- □「オープンソース」という言葉はまだなかった
  - ○私が初めて聞いたのは1998年11月のPerl Conference

## オープンソースまつり 2001 in 秋葉原

- □会期: 2001年2月10日(土) ~ 11日(日)
- □場所: ヒロセイベントスペース、ダイドウホール
- □展示
  - ○企業5社、ユーザグループ17団体
  - ○ステージ発表29件
- □セミナー
  - ○有料6件
  - ○主にjusが提供
- □BOF
  - ○無料7件
  - ○ユーザグループに部屋を提供して自由に使ってもらった
  - ○内容はセミナー、討論などさまざま
- □来場者数: 8000人

## まつり2001の開催結果

- □参加団体は増えた
  - ○オープンソース運動の拡がりは感じた
- □休日2日間にしたが、来場者はそれほど増えなかった
  - ○季節的な問題？
  - ○あるいは、思ったほどオープンソース人口は増えてないのかも
- □前回よりもさらに「まつり」らしい雰囲気になった
- □周囲の評価も良かったらしい
- □しかし収支が全く改善しなかった
  - ○赤字はjusとぷらっとホームが負担

## 「まつり」を継続するには

- □経済モデルの確立が必要
  - ○商業展示会モデル
  - ○コミケモデル
  - ○バーベキューモデル、など思案中
  - ○もうからなくてよいが収支均衡になることは必要
- □専属に近い形で動く人が毎回1人は必要
  - ○いわば「まとめ役」
- □日頃から仲良くする
  - ○コミュニティとも
  - ○コミュニティ同士も

## 財政面の苦労

- □出展料
  - ○会場が狭いのでコマ数を稼げない
  - ○ユーザグループから出展料を取れない
- □セミナー参加費
  - ○jus勉強会価格では大きな収入源にならない
  - ○しかし価格を上げると参加者が集まらない
- □協賛金
  - ○企業との地道な交渉が必要だがjusの労力不足
- □運営を業者に委託すると高くつく
  - ○会場設営やパンフ作成など
  - ○jusで行うのは困難なので外せなかった
- □会場費が高い
  - ○立地条件にこだわった結果
- □財政的にはぷらっとホームなしには成立しなかった

## 私と「オープンソースまつり」

- □「まつり」とは...
  - ○辞書や文献によると、「神々に感謝の意を表すために、人々が集まって行う諸行事」と書いてある
- □「オープンソースまつり」とは...
  - ○オープンソースの神々に感謝するための行事、かもしれない
- □自分の生活に欠かせないソフトウェアを作ってくれた人達に、感謝の心を忘れてはいけない
  - ○無料で使えるぞわーい、で終わってはいけない
  - ○自らの感謝の意を、このイベントに込めた
- □オープンソースの精神的な部分を多くの人に伝えていきたい

## 会計報告(まつり2001)

- □収入: 135万円
  - ○セミナー 65万円
  - ○協賛金 70万円
- □支出: 1100万円
  - ○業務委託費 630万円
  - ○会場費 400万円
  - ○交通費 25万円
  - ○その他 45万円

## まとめ

- □オープンソースまつりの内側を紹介
- □発表資料
  - ○http://www.suplex.gr.jp/~hourin/juskansai200110/
- □もっと突っ込んだ話は第4セッションで:-)

## 「まつり」をやって良かったこと/悪かったこと

[良かったこと]

- □コミュニティを集めることができた
  - ○特に、BSDもLinuxも区別なく集まった点は意義深い
- □雰囲気的には、当初考えていたものができた

[悪かったこと]

- □経済的に成り立っていない
  - ○このモデルではダメか？
- □ユーザグループを「お客さん」扱いしてしまった
  - ○jusの負担が増えるがjusには労力はない
  - ○共同でイベントを作るという意識がお互いに必要